

今月は、『地方公務員が本当にすごい！
と思う地方公務員アワード2021』を
受賞された加古川市職員の多田さんに、
現在ご担当の「スマートシティ推進」に
ついてお伺いしました。

幸せを実感できる 加古川に向けて

受賞は周りから言われて知りました

受賞はLINEやメールが大量に届いて知りました。他自治体の方が推薦してくださったようで、市独自の特別定額給付金にかかる加古川市版オンライン申請システムや加古川市新型コロナウイルスワクチンWeb抽選申込システムを作ったことが評価されたようです。確かに職員にとって効率よく業務が行えましたが、あくまでこのシステム開発のきっかけは、給付金がなかなか振り込まれない、ワクチンの予約電話が全くつながらないという状況を見て「市民の皆さんは不便ではないのか？」と

思ったことからです。

私が今担当しているスマートシティの推進も同じです。「市民の生活を便利にし、幸福度を高めるには何をすればいいのか」を考え実現していく業務で、人と人を繋ぐやりがいのある業務です。スマートシティと聞くと、何でも「デジタル化」すること、と思われるかもしれませんが、確かにデジタルツールを取り入れれば生活はより便利になるので、スマートシティを推進するうえでは欠かせないものです。しかしあくまでも手段の一つであって、スマートシティを進める根幹にあるのは『市民が豊かさを感じられる暮らし』です。

まずは皆さんの声に耳を傾け、課題を解決するベストの方法は何なのか、デジタル化できるのであれば、「デジタルが苦手な方」も使いやすくするにはどうすればいいのか、などを考え実践していくのがスマートシティの目指すところですよ。

例えば、市内の通学路や学校・公園周辺などに約1,500台の見守りカメラを設置したことで、抑止効果から人口1,000人あたりの刑法犯認知件数が大きく減りました。安心して暮らせるまちづくりとして、非常に大きな成果です。

他にも、窓口でのタブレットを用いたよりわかりやすい説明や、公金のキャッシュレス支払い、母子手帳のデジタル化、オンライン図書室、介護ロボ

ットの導入……。実現したいアイデアは次々と浮かびますが、検討や実証実験を重ね皆さんのニーズに答えられるサービスを提供してまいります。

加古川市はスマートシティ先進地

令和元年に『日・ASEAN スマートシティ・ネットワークハイレベル会合（ASCN）』、グローバル・スマートシティ・アライアンス設立会合（GGSCA）に加古川市が出席し、見守りカメラ・サービスを始めたスマートシティの取り組みについて岡田市長がプレゼンテーションしました。また来月12月10日にウエルネージかこがわで開催されるOGCシンポジウム2022・加古川『デジタル社会をどう実現するか？』※では、岡田市長と私が講演します。加古川市の取り組みは先進地として注目され、他市からの問い合わせや視察も増えています。今後更なる先進的な取り組みにご期待下さい。

皆さんの声を聞かせてください

スマートシティの実現は、市役所だけでやっているわけではなく、市民の皆さんの参加と協力があつてこそです。市民の皆さんのお声に真摯に耳を傾け、「暮らしやすい」「住んで良かった」と思えるよう、これからも、幸福度を高めるため精一杯努めていきます。

※12月10日 OGCシンポジウム

2022・加古川



加古川市企画部政策企画課

スマートシティ推進担当課長 ただ いさお 多田 功 さん